

テーマ：2010年7-9月期GDP（2次速報値）の予測
 ～ 前期比年率+3.7%へ小幅下方修正を予想 ～

発表日：2010年12月2日（木）

第一生命経済研究所 経済調査部
 主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL:03-5221-4528

○ 1次速報からほぼ変わらず

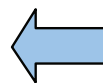
12月9日に内閣府から公表される2010年7-9月期実質GDP（2次速報）は、前期比年率+3.7%（前期比+0.9%）と、1次速報段階の前期比年率+3.9%（前期比+0.9%）から僅かに下方修正されると予想する。本日公表された法人企業統計の結果を受けて設備投資が上方修正される一方、公共投資と在庫投資が下方修正されるとみられることが影響する。もっとも、修正幅は僅かであり、「自動車やたばこの駆け込み需要によって押し上げられた一時的な高成長」という構図は変わらない。景気認識に修正をもたらすものにはならないだろう。

2次速報予測値

	(%)
実質GDP	0.9
(前期比年率)	3.7
内需寄与度	0.9
(うち民需)	0.9
(うち公需)	▲0.0
外需寄与度	0.0
民間最終消費支出	1.1
民間住宅	1.3
民間企業設備	1.3
民間在庫品増加(寄与度)	0.1
政府最終消費支出	0.1
公的固定資本形成	▲2.3
財貨・サービスの輸出	2.4
財貨・サービスの輸入	2.7
名目GDP	0.7
(前期比年率)	2.7

1次速報

	(%)
実質GDP	0.9
(前期比年率)	3.9
内需寄与度	0.9
(うち民需)	0.9
(うち公需)	0.0
外需寄与度	0.0
民間最終消費支出	1.1
民間住宅	1.3
民間企業設備	0.8
民間在庫品増加(寄与度)	0.1
政府最終消費支出	0.1
公的固定資本形成	▲0.6
財貨・サービスの輸出	2.4
財貨・サービスの輸入	2.7
名目GDP	0.7
(前期比年率)	2.9



○ 設備投資は上方修正、公共投資が下方修正

設備投資は前期比+1.3%と、1次速報段階の同+0.8%から上方修正されると予想する。本日公表された法人企業統計では、名目設備投資が前期比+1.9%と増加した。QE推計に際して行われるサンプル替えの影響を軽減するための断層調整などを行えばプラス幅は縮小することに加え、供給側推計値も下方修正されるとみられるが、GDP 1次速報段階での設備投資と比べると高い伸びであることは変わらない。企業収益の回復を背景として設備投資は緩やかな増加傾向にあると考えられる。

在庫投資の対GDPの前期比年率寄与度は+0.3%ポイントと、1次速報（同+0.5%ポイント）から僅かに下方修正されると予想する（前期比寄与度では+0.1%ポイントで変わらず）。本日の法人企業統計を元に推計すると、仕掛品在庫と原材料在庫が1次速報段階の仮置き値から若干下振れたとみられる。また、公的固定資本形成は、9月分の建設総合統計の結果を反映して前期比▲2.3%と、1次速報段階の同▲0.6%か

ら下方修正されると予想する。

このように、設備投資の上方修正が予想される一方で、公共投資と在庫投資が下方修正されることで、GDP全体としては大きな修正はない見込みである。

○ 予測値は幅をもってみる必要あり

なお、今回の2次速報値公表に際しては、2009年度の確報（および2008年度確々報）の結果が反映されることに注意が必要である¹。過去においても、確報で計数が大きく修正されることが多いため、今回の2次速報予測にあたって攪乱要因になる可能性が高い。また、季節調整に際して用いるモデルも公表されていないことも予想を難しくしている。こうしたことから、今回の2010年7-9月期GDP 2次速報の予測を正確に行うことは非常に難しく、予測値には十分幅をもってみる必要があるだろう。

¹ 従来は、7-9月期2次速報公表の約一週間前に前年の確報値（支出側）が公表されていたが、今回から2次速報と同時に公表されることになった。